

2015 マックの現状と 今後の依存症対策

全国マック協議会と
マックの現状と課題に向けて
そして、依存症支援対策について

全国マック協議会 井上 茂

全国マック協議会で行うこと

- 大宮ハウスから三ノ輪マック、そして現在のマックグループに繋がる**基本的な活動理念を再認識し、その共通理念の旗の下で各マックが互いに協力していくことを確認・協議していく場**にすること。：基本理念の共有
- マックグループ各施設の通所者に対する責任や社会的な責任に応える**行動倫理を共有する場**にすること。：社会的責任
- 質の高いサービスを提供していくために、**施設職員の研修を協働して行なっていく場**にすること。：利用者への責任
- 各マックが協議会を通して**情報交換や分かち合いを行なっていく場**にすること。：グループとしての一体性
- **今後のマック(活動、運営、組織、等)をどのようにしていくのかを協議していく場**にすること。：未来への活動

メリノールレジデンス(Halfway-House)

～ 通称:大宮ハウス ～

1975年5月(S. 50)～1978年7月(S. 53)

○ 大宮ハウス開設 ⇒ マックハウスの原型

- 保健、医療、福祉等から忌み嫌われる存在としてのアルコール依存症者
- 退院後、帰る場のないア症者の「**生活の場**」であり、回復プログラム(その一つが**A.A.12ステップ**)が用意されていた。
- 医療の管理下にはないもう一つの回復支援の場で、回復者カウンセラーによって運営されるハーフウェイハウス。

<生活の場:施設のイメージではない>

- 家庭的雰囲気での生活、回復者カウンセラー、仲間、安心
- 生活スタイルの建て直し(病的習慣から健康的習慣へ)
食生活や社会生活上の習慣等を実生活の場を通して学習
- 医療機関への外来 ⇒ 傷んだ身体の治療

段階的に現れる課題と回復支援

◇ 日常生活の自立

疾病の治療や崩れた生活習慣の立て直し。

(挨拶、掃除、洗濯、食事作り、金銭管理)

◇ 社会的な自立

社会生活を適切に行なう。 : 人間性の回復

(社会習慣・ルールに順応、円滑な対人関係)

◇ 就労後に現れる問題 : 就労支援中から助言や提案

ソブラエティを続けるためのSelfish Program

(残業とA.A.ミーティングの優先性、宴会への参加考)

⇒ 回復支援と生活保護法による自立助長との一致

ソブラエティとリラップスの分かれ道

素面での現実との直面

問題の浮上
問題の発生

問題の否認・無視
問題からの逃避
問題の抱え込み

リラップスの
プロセス

問題の受容
助けを求める

回復の
プロセス

問題に気づくことは回復の道を歩んでいる証拠

マックとは

回復への「基礎固め」を集中的に行う場所

- マックは、通所者がマック修了後も質の高い回復（人間性の回復）を目指し、A.A.ミーティングに通いながら地域社会のなかで生活していけることを願い、その手助けを行なっている。
- マックプログラムは、そのための道案内。
それを支える考え方は、A.A.12ステップ哲学に基礎を置いている。
- マックは、回復への基礎固めをする通所・入所施設、
アルコール依存症者が回復していく過程での通過機関。
- マックグループ：全国で15団体53施設（各団体は独立）
「A.A.グループ」への橋渡し